



2021年9月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年2月2日

上場会社名 EPSホールディングス株式会社
 コード番号 4282 URL <https://www.eps-holdings.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 巖 浩

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 副社長執行役員 (氏名) 関谷 和樹

TEL 03-5684-7873

四半期報告書提出予定日 2021年2月12日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年9月期第1四半期の連結業績(2020年10月1日～2020年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年9月期第1四半期	16,618	10.4	1,449	95.6	1,709	91.5	1,004	104.5
2020年9月期第1四半期	15,053	6.9	740	52.9	892	43.7	491	58.1

(注) 包括利益 2021年9月期第1四半期 1,224百万円 (1,554.0%) 2020年9月期第1四半期 74百万円 (93.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年9月期第1四半期	22.78	
2020年9月期第1四半期	10.97	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年9月期第1四半期	68,052	47,605	65.7
2020年9月期	70,458	46,939	62.6

(参考) 自己資本 2021年9月期第1四半期 44,702百万円 2020年9月期 44,106百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年9月期		10.00		10.00	20.00
2021年9月期					
2021年9月期(予想)		10.00		10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年9月期の連結業績予想(2020年10月1日～2021年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	69,800	4.7	4,800	5.4	5,000	0.4	2,600	30.3	58.96

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年9月期1Q	46,311,389 株	2020年9月期	46,311,389 株
期末自己株式数	2021年9月期1Q	2,212,284 株	2020年9月期	2,212,221 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年9月期1Q	44,099,165 株	2020年9月期1Q	44,779,375 株

(注)期末自己株式数には、EPS益新株式会社が所有する当社株式93,090株が含まれています。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における業績全般の概況

	前第1四半期連結累計期間		当第1四半期連結累計期間		増減	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	増減率 (%)
売上高	15,053	100.0	16,618	100.0	1,564	10.4
営業利益	740	4.9	1,449	8.7	708	95.6
経常利益	892	5.9	1,709	10.3	816	91.5
親会社株主に帰属する 四半期純利益	491	3.3	1,004	6.0	513	104.5

文中の将来に関する事項は、当第1四半期連結会計期間の末日現在において判断したものです。

当第1四半期連結累計期間における当社グループ全体の連結売上高、営業利益はともに順調に推移しており、また各事業における新型コロナウイルスの影響は軽微に留まりました。

前年同期と比較すると、国内事業においては、CRO（医薬品開発受託機関）事業は、モニタリングを中心に稼働率が向上していること、また、CSO（医薬品販売事業受託機関）事業は医薬向けコントラクトMR（契約医薬情報担当者）やDI業務*をはじめ、各サービスともに順調に進捗しており、増収増益となりました。SMO（治験施設支援機関）事業は、新型コロナウイルスの影響で、特に地方の医療機関への訪問制限や被験者の来院減少などにより若干の減収減益となりました。

海外事業において、Global Research 事業は、受注の競争環境が厳しく減収減益となりました。益新事業は前第1四半期、中国において製造ラインを一時的に停止しましたが、その後再開し増収となりました。

この結果、連結売上高は、対前年同期比10.4%増の16,618百万円となりました。

連結営業利益は、売上高が増加したことによる増益に加え、コスト構造改革を推進し管理面での費用削減を進めた効果が表れ、対前年同期比95.6%増の1,449百万円となりました。

※DI（drug information/おくすり相談室）業務：医薬品の最新情報を医療関係者向けに提供するコールセンター業務

事業セグメント別内訳は次の通りです。

セグメントの状況

当社グループは主として以下の5セグメント（国内3、海外2）にて事業を展開しています。

			前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	増減
			百万円	百万円	百万円
国内事業	CRO	売上高	6,926	7,246	319
		営業利益	787	1,246	459
	SMO	売上高	3,509	3,356	△152
		営業利益	471	402	△68
	CSO	売上高	2,831	3,184	352
		営業利益	226	411	184
海外事業	Global Research	売上高	1,016	856	△159
		営業利益	70	25	△44
	益新	売上高	1,160	2,135	975
		営業損失（△）	△355	△87	268

① C R O事業

C R O事業は主にイーピーエス(株)、E P クルーズ(株)、(株)E P メディエイト及び(株)T T Cにて展開しています。

同事業では、トータルソリューションサービスを提供するE P Sプラットフォームの構築を目指し、バーチャル治験の体制(Virtual Go)構築や、アカデミアなどとの共同研究を通じた知見の獲得など、新たなサービスの確立を含めた取り組みを行っています。

売上高は前年同期と比較して319百万円増の7,246百万円(4.6%増)、営業利益は459百万円増の1,246百万円(58.4%増)となりました。

主な業務別の状況は以下の通りです。

[治験・PMS業務]

複数の取引先とのアライアンス契約による受注が順調に進捗しており、高い稼働率で推移しています。前年同期は引合いが低調であった影響で売上に苦戦しましたが、モニタリング業務やデータサイエンス業務を中心に稼働率が大幅に向上し増収増益となりました。

[臨床研究業務]

多様化する臨床研究に対して体制強化及び上流工程からの支援サービスの拡充と営業強化に取り組んでいます。医師主導治験を含めたアカデミア案件を中心に引合いが順調であり、臨床研究のモニタリング業務が、高い稼働率を維持しており、原価削減の効果もあり増収増益となりました。

[医療機器、その他業務]

非医薬品のC R O事業を強化するため、医療機器業務と機能性食品のC R Oとの連携を図っています。前年同期と比較すると、医療機器業務が市場の拡大とともに、堅調に売上を伸ばしています。また、機能性食品関連業務は、新規の引合いが好調です。

② S M O事業

S M O事業は、(株)E P 総合にて展開しています。

同事業では試験依頼者への新しいサービスを含めた提案営業やアライアンス契約による受注の確保、症例集積性のよい優良施設に対するリソースの集中などの地域戦略を積極的に行っています。

売上高は前年同期と比較して152百万円減の3,356百万円(4.4%減)となりました。営業利益は68百万円減の402百万円(14.5%減)となりました。

業務面においては、必須文書など治験関連文書の電子化によるI R B(治験審査委員会)の遠隔審査体制の推進により、試験の効率化を図り生産性を向上させています。さらに、医療機関に配置したS D M*が試験データの集中管理を行うことでC R C(治験コーディネーター)の負荷を軽減し、迅速な症例集積と試験コストの低減を図る新しいビジネスモデルを展開しています。前年同期と比較すると、引合いが好調で多くの案件が稼働していますが、新型コロナウイルスの影響で、特に地方の医療機関への訪問制限や被験者の来院減少などにより若干の減収減益となりました。

※S D M(Site Data Manager) : C R Cが被験者・医療スタッフとの対応や症例集積に集中するために、S D Mとして治験モニター(C R A(Clinical Research Associate))を医療機関に配置し、データの精査やシステムへの入力などを専属で担当する。

③ C S O事業

C S O事業は(株)E P ファーマライン、(株)E P フォース及び(株)E S リンクにて展開しています。

売上高は前年同期と比較して352百万円増の3,184百万円(12.4%増)、営業利益は前年同期と比較して184百万円増の411百万円(81.5%増)となりました。

主な業務別の状況は以下の通りです。

[D I 業務]

これまでD I 業務をアウトソースしてこなかった新規取引先の増加や、コロナ禍に対応した付加価値のあるサービスを製薬会社に提供できたこともあり、増収となりました。利益面では前年同期のように高収益なスポット案件の効果がなかったため、若干の減益となりました。

[コントラクトMR業務]

近年続いた製薬業界のMR削減に起因するコントラクトMRへの需要低減が収束し、引合いも回復傾向にあります。新規プロジェクトへの人員配置などが着実に進み、稼働率が高まったことにより、増収増益となりました。

[その他業務]

学術資材作成業務は、質・量ともに供給体制の強化を図るなどの取り組みなどを行ったこと、製品販売後調査サポートサービスや医薬品流通管理などの業務が好調に進捗するなどして、増収増益となりました。

④ Global Research 事業

Global Research 事業はE P S インターナショナル(株)とその海外グループ会社で構成されており、日本、中国及びアジア・パシフィック地域でCRO事業を展開しています。

売上高は前年同期と比較して159百万円減の856百万円(15.7%減)となりました。営業利益は前年同期と比較して44百万円減の25百万円(63.3%減)となりました。

海外から受託する国内試験については、グローバルCROとの競争激化により、新規受託が低調でした。

中国国内事業につきましては、前期買収した中国CROの北京格鋭博医薬研発有限公司(G&P)を中心として、中国市場の拡大に伴い引合いが増加していますが、一部の試験が延期となる影響がありました。

アジア・パシフィック地域においては、各国でのローカル案件の受託に注力するとともに、事業基盤整備の効果が出てきています。

⑤ 益新事業

益新事業は、E P S 益新(株)、益新(中国)有限公司の2つの統括会社及び中国のグループ会社で展開していません。

同事業は、(株)スズケンとの緊密な資本業務提携のもと、医薬品や医療機器を中心とした製品関連事業、国際貿易事業及び周辺サポート関連事業を展開し、一層の収益拡大を図っています。

売上高は前年同期と比較して975百万円増の2,135百万円(84.1%増)、営業損失は87百万円(前年同期間355百万円の損失)となりました。

同事業は、医薬品の製造販売を収益の柱としており、販売チャネルの選別による収益性の強化も取り組んでいます。売上・利益面では、前第1四半期は製造ラインを一時的に停止した影響がありましたが、製造を再開したことにより増収となりました。中国国内においても新型コロナウイルスの感染発生以降、医療機関への来院患者が減少していることから、販売への影響が続いています。

(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年11月5日に2020年9月期決算短信にて公表しました業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	22,127	19,537
受取手形及び売掛金	16,313	15,855
有価証券	1,378	1,479
商品及び製品	1,002	989
仕掛品	1,752	2,340
その他	3,494	3,957
貸倒引当金	△159	△168
流動資産合計	45,909	43,992
固定資産		
有形固定資産	7,244	7,311
無形固定資産		
のれん	5,984	5,687
その他	1,438	1,439
無形固定資産合計	7,422	7,126
投資その他の資産		
投資有価証券	3,690	4,281
敷金及び保証金	1,984	2,011
その他	4,206	3,327
投資その他の資産合計	9,880	9,621
固定資産合計	24,548	24,059
資産合計	70,458	68,052
負債の部		
流動負債		
買掛金	753	959
短期借入金	3,465	3,765
1年内返済予定の長期借入金	209	159
未払法人税等	2,104	134
賞与引当金	3,554	1,455
受注損失引当金	296	263
その他	9,835	10,546
流動負債合計	20,219	17,284
固定負債		
長期借入金	204	202
役員退職慰労引当金	110	71
退職給付に係る負債	1,767	1,703
資産除去債務	580	578
その他	636	607
固定負債合計	3,299	3,162
負債合計	23,518	20,446

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,888	3,888
資本剰余金	13,382	13,373
利益剰余金	29,007	29,570
自己株式	△2,802	△2,802
株主資本合計	43,475	44,029
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	164	175
為替換算調整勘定	559	575
退職給付に係る調整累計額	△93	△78
その他の包括利益累計額合計	630	672
非支配株主持分	2,833	2,902
純資産合計	46,939	47,605
負債純資産合計	70,458	68,052

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2019年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2020年12月31日)
売上高	15,053	16,618
売上原価	10,889	11,205
売上総利益	4,164	5,412
販売費及び一般管理費	3,423	3,963
営業利益	740	1,449
営業外収益		
受取利息	26	30
受取配当金	19	27
保険解約益	25	105
為替差益	61	31
その他	51	70
営業外収益合計	184	265
営業外費用		
支払利息	3	4
その他	28	0
営業外費用合計	32	5
経常利益	892	1,709
税金等調整前四半期純利益	892	1,709
法人税、住民税及び事業税	△203	59
法人税等調整額	748	525
法人税等合計	545	584
四半期純利益	347	1,124
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△144	119
親会社株主に帰属する四半期純利益	491	1,004

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2019年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益	347	1,124
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△449	10
為替換算調整勘定	147	74
退職給付に係る調整額	29	15
持分法適用会社に対する持分相当額	0	△0
その他の包括利益合計	△273	99
四半期包括利益	74	1,224
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	154	1,046
非支配株主に係る四半期包括利益	△80	177

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2019年10月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント							調整額(注1)	四半期連結 損益計算書 計上額
	CRO事業	SMO事業	CSO事業	Global Research 事業	益新事業	その他	計		
売上高									
外部顧客への売上高	6,522	3,500	2,802	957	1,158	113	15,053	—	15,053
セグメント間の内部 売上高又は振替 高	404	8	29	59	1	419	922	(922)	—
計	6,926	3,509	2,831	1,016	1,160	532	15,976	(922)	15,053
セグメント利益	787	471	226	70	(355)	30	1,230	(489)	740

(注) 1 セグメント利益の調整額(489)百万円は、セグメント間取引消去等の7百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用(497)百万円が含まれています。全社費用の主なものは、当社(持株会社)に係る費用です。

2 株式会社E P S アソシエイトはE P S インターナショナル株式会社を2019年10月1日付で吸収合併し、商号をE P S インターナショナル株式会社へ変更しています。それに伴い、セグメントを「CRO事業」から「Global Research事業」に変更しました。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2020年10月1日 至 2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント							調整額(注)	四半期連結 損益計算書 計上額
	CRO事業	SMO事業	CSO事業	Global Research 事業	益新事業	その他	計		
売上高									
外部顧客への売上高	7,118	3,350	3,179	769	2,130	70	16,618	—	16,618
セグメント間の内部 売上高又は振替 高	127	6	4	87	5	730	961	(961)	—
計	7,246	3,356	3,184	856	2,135	800	17,579	(961)	16,618
セグメント利益	1,246	402	411	25	(87)	(7)	1,992	(542)	1,449

(注) セグメント利益の調整額(542)百万円は、セグメント間取引消去等の3百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用(546)百万円が含まれています。全社費用の主なものは、当社(持株会社)に係る費用です。